

- 富士電機のSDGs
- ESG (環境・社会・ガバナンス)
- 環境
  - 方針・環境ビジョン2050・TCFD提言に沿った取り組み
  - 環境マネジメント
  - 環境経営の実績・データ
  - 脱炭素社会の実現
  - 循環型社会の実現
  - 自然共生社会の実現
  - 化学物質管理**
  - 生物多様性の保全
- 社会
- ガバナンス
- ESGインデックス
- ISO26000対照表
- 社外からの評価
- PCB使用電気機器の判別について

- 関連資料
- ▶ 富士電機レポート2021
  - ▶ 報告書バックナンバー
  - ▶ 環境カタログ  
「Blue Navigation」
  - ▶ 資料請求

環境・社会・ガバナンス

## 化学物質管理

化学物質の中には優れた機能がある一方で、使い方を誤ると人の健康や環境に悪影響を及ぼすものがあります。富士電機は「環境ビジョン2050」において「自然共生社会の実現」をビジョンとして掲げています。その中で、化学物質を適正に管理することで、環境への悪影響をなくすことを目指しています。

[↓化学物質の管理・削減](#)   [↓製品含有化学物質の管理](#)

### 化学物質の管理・削減

富士電機は、国内で、大気汚染防止法に基づいた電機・電子4団体<sup>※1</sup>の自主行動計画に基づき、2010年度までにPRTR法<sup>※2</sup>制度対象物質の環境への排出量と、揮発性有機化合物（VOC）の大気排出量を、ともに2000年度比40%削減するという目標を設定して取り組みを行いました。その結果、2010年度のPRTR法対象物質の排出量は2000年度比40.4%削減、VOC大気排出量は62.2%の削減となり、いずれも目標を達成しました。

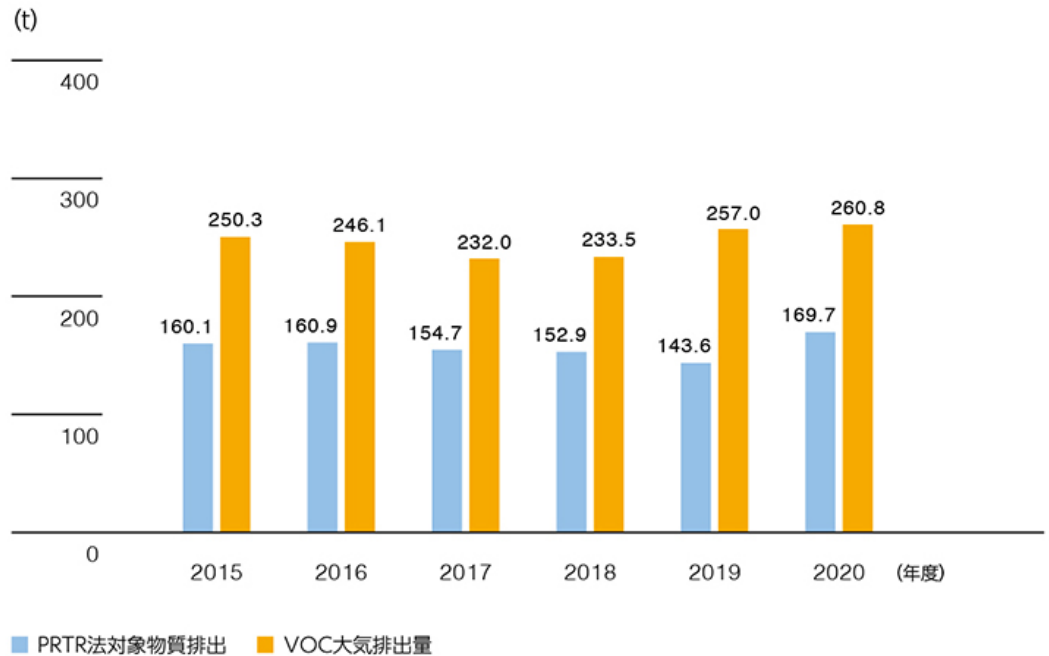
2010年度以降は自主目標を設定。さらに2012年以降は海外拠点の排出量調査も開始して、グローバルでの排出量抑制に取り組んでいます。

2020年度は、PRTR法対象物質の排出量目標(グローバル)1,505t未満に対し、実績648tで目標を達成、VOC排出量も目標(グローバル)1,694t未満に対し、実績819tで目標を達成しました。PRTR法対象物質の排出量は251tの削減、VOC排出量は264tの削減でした。(いずれも対前年比)

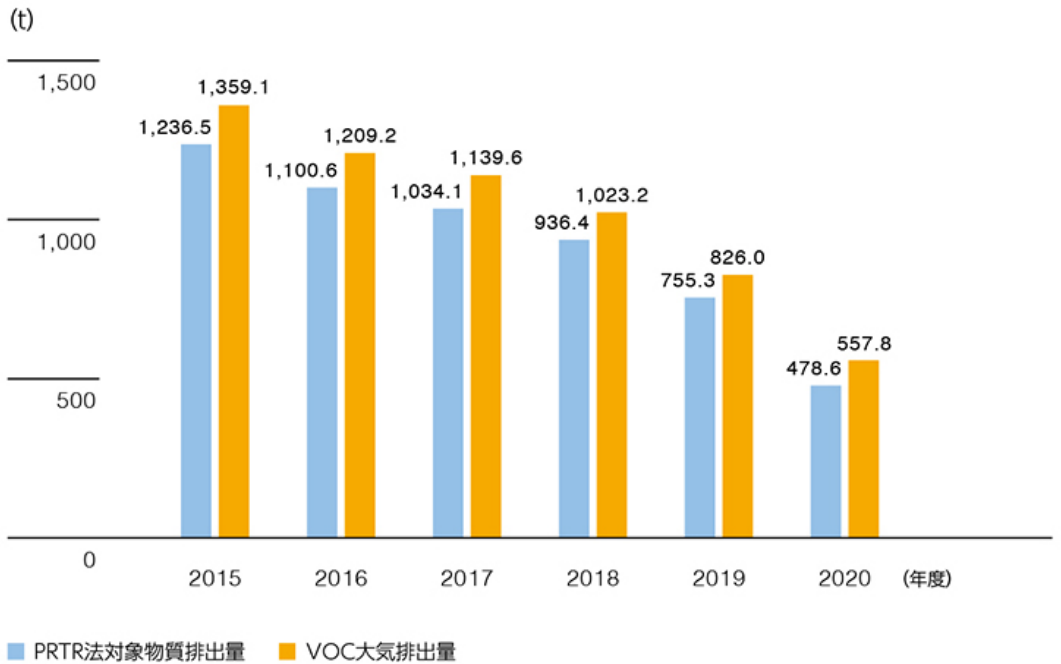
※1 (一社) 電子情報技術産業協会 / (一社) 情報通信ネットワーク産業協会 / (一社) ビジネス機械・情報システム産業協会 / (一社) 日本電機工業会

※2 特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律

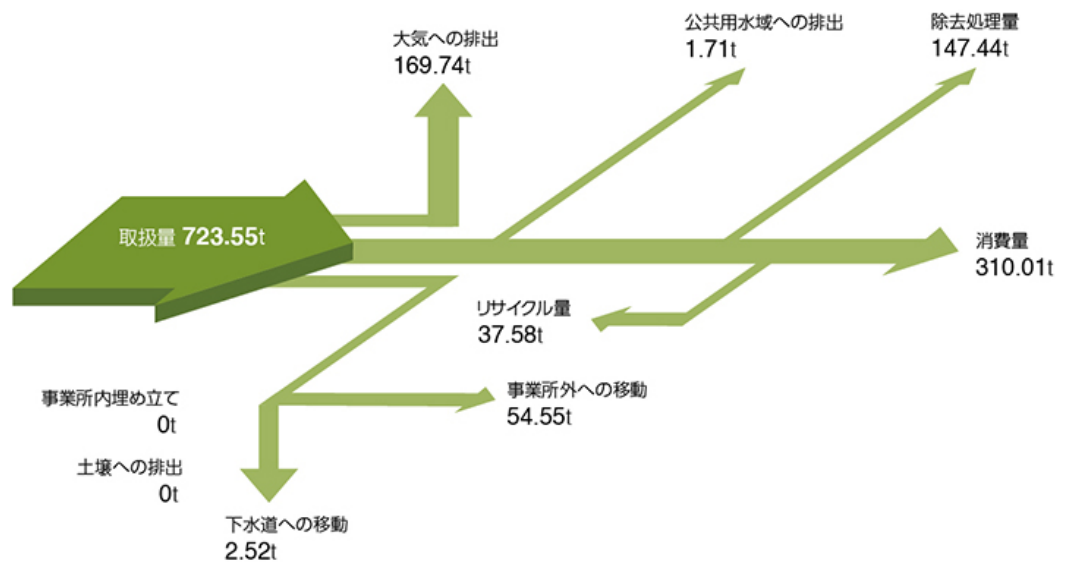
### 国内のPRTR法対象物質排出量・VOC大気排出量の推移



### 海外のPRTR法対象物質排出量・VOC大気排出量の推移



#### PRTR対象物質マテリアルバランス (国内)



注) 全ての生産拠点の排水は排水処理施設にて適切な処理が行われ、排水基準を満たしています。そのため、水域への基準値を超える重金属等の流出はありません。

### 製品含有化学物質の管理

富士電機は、製品の出荷先である世界各地の法規制への適合と製品ライフサイクルでの環境負荷の低減を目指し、使用される有害化学物質の削減と機器性能の向上を進めています。

有害化学物質の削減については、規制物質対応 WG\* を組織化し全社での情報共有と製品適合の目標設定・評価・実行を推進してきました。具体的には、鉛（はんだ・部品・塗料）、カドミウム（接点）、6価クロム（ネジ・防錆）、水銀（ランプ・電池）、特定の臭素系難燃剤（樹脂製品）、フロン（冷媒）、等の削減・代替の技術を確立し、法的要求のある製品だけでなく可能な限り対象製品を拡大して、有害化学物質の削減・代替を進めています。

主な取り組みの成果は下記の通りです。

- 自動販売機では、鉛フリー技術適用（2005年）や、ノンフロン&係数1冷媒（R1234yf）実用化（2011年）等の技術で、業界をリードしています。
- 国内外のコンポーネント系全工場に蛍光X線分析装置計35台（2003～2004年）を導入し、部品の受け入れ検査で活用しています。

さらに2017年度からは、特定のフタル酸エステル類（樹脂可塑剤）の削減・代替の取り組みにより、2019年7月から規制対象となる製品、及び2021年7月から規制対象となる製品の対応を完了しています。

一方、製品に含有される化学物質の管理は、製品に使用される部品・部材の情報が基本となるため、これらを統括するデータベースの整備・高度化を図るとともに、多様な調査スキームへの対応も可能としました。

海外工場は、国内マザー工場からの指示により、適正な化学物質対応を行っています。

注\* 規制物質対応 WG

環境ものづくり分科会の下部組織としての会議体であり、設計・開発メンバーで構成される。  
定期的に年2～3回の頻度で開催され、目標・成果は上位方針の下で管理される。

#### 取り組み紹介

- ▶ [グリーン調達取り組み](#)

#### ガイドライン

- ▶ [グリーン調達ガイドライン](#)